

長野工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	情報処理
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 柴田望洋「新・明解C言語 入門編」, ソフトバンククリエイティブ.				
担当教員	荒井 善昭, 大矢 健一				
到達目標					
<p>基礎的なC言語のプログラムを読むことができ、 また、「順次・選択・反復」の基本三構造を意識したプログラミングができる (C-2)。 モジュールを意識したプログラミングが作成でき、具体的な事例に適用できる (D-2)。</p>					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
(C-2) (D-2)					
教育方法等					
概要	C言語を用いてプログラミング技術を習得するとともに、データ構造とアルゴリズムおよびファイル処理の基礎など、システム設計に必要な知識を修得する。				
授業の進め方・方法	・前期の授業方法は講義を中心とし、毎回課題を出すので、毎回提出すること。				
注意点	<p>(記入例) <成績評価> 前期はレポート(100%)で評価する。 後期は定期試験の成績 (70%) と授業毎に与える課題 (30%) を総合的に判断して評価する。 上記 (C-2) が70%, (D-2) が30%の重みで成績を評価し、 前期、後期ともそれぞれ6割以上の得点で合格とする。 <オフィスアワー> 月曜日16:00~17:00, 電子情報工学科4F第7教員室(大矢) 水曜日16:00~17:00, 電子情報工学科3F第5教員室(荒井) <先修科目・後修科目> 先修科目は電子情報工学概論, 後修科目はマイクロコンピュータ, アルゴリズムとデータ構造となる。 <備考> 1年次に修得した情報処理基礎の知識を必要とする。 また、電子情報工学棟2Fの情報処理実習室のパソコン環境を修得しているものとして演習を行う。</p>				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	C言語概要	C言語のデータ型・代入が理解でき、コンパイルと実行ができる。	
		2週	制御の流れ1	if-else・while・for・switch 文を理解し、正しいコードが書ける。	
		3週	制御の流れ2	if-else・while・for・switch 文を理解し、正しいコードが書ける。	
		4週	制御の流れ3	if-else・while・for・switch 文を理解し、正しいコードが書ける。	
		5週	制御の流れ4	if-else・while・for・switch 文を理解し、正しいコードが書ける。	
		6週	配列1	配列を理解し、正しいコードが書ける。	
		7週	配列2	配列を理解し、正しいコードが書ける。	
		8週	配列3	配列を理解し、正しいコードが書ける。	
	2ndQ	9週	配列4	配列を理解し、正しいコードが書ける。	
		10週	関数1	関数を理解し、引数・戻り値を理解し、正しいコードが書ける。	
		11週	関数2	関数を理解し、引数・戻り値を理解し、正しいコードが書ける。	
		12週	関数3	関数を理解し、引数・戻り値を理解し、正しいコードが書ける。	
		13週	関数4	関数を理解し、引数・戻り値を理解し、正しいコードが書ける。	
		14週	関数5	関数を理解し、引数・戻り値を理解し、正しいコードが書ける。	
		15週	まとめ	これまでの授業をもとに総合的な課題を実行できる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	ポインタ1	ポインタを理解できる。	
		2週	ポインタ2	アドレス演算子、間接演算子を理解し、プログラムコードが書ける。	
		3週	ポインタ3	関数の引数としてポインタを使う意味を理解し、使える。	
		4週	ポインタ4	ポインタと配列の扱い方を理解し、プログラムコードが書ける。	
		5週	文字列とポインタ1	文字列の構成を理解し、プログラムが書ける。	

4thQ	6週	文字列とポインタ 2	文字列リテラルの扱いを理解し、プログラムが書ける。
	7週	文字列とポインタ 3	文字列を扱う関数を理解し、利用したプログラムが書ける。
	8週	構造体 1	構造体を理解し説明できる。
	9週	構造体 2	構造体メンバーへのアクセス方法を理解し、プログラムが書ける。
	10週	構造体 3	構造体のメンバーに構造体を用いることができる。
	11週	共用体	共用体を理解し、使うことができる。
	12週	ファイル処理 1	ストリームの考え方を理解し、使うことができる。
	13週	ファイル処理 2	ファイル処理関数を理解し、使うことができる。
	14週	ファイル処理 3	ファイル処理関数を用いたファイル操作ができる。
	15週	まとめ	これまでの学習から自分の弱い点を認識し補うことができる。
	16週	試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	35	15	0	50	0	100
配点	35	15	0	50	0	100